

# ミカン生育情報

千葉県  
平成20年12月号

## 平成20年11月の気象

平均気温は、第1、第4、第6半旬は平年を0.4～1.5℃上回ったが、その他の半旬では0.5～1.8℃下回り、月平均気温は12.8℃で平年より0.5℃低かった。降水量は、上旬、中旬は少なかったが、下旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、雨の日が5日あり、平年より多かった。月合計降水量は98mmと平年の64%となった。日照時間は、ひと月を通して平年を下回り、月合計日照時間は103時間で平年比72%であった。月平均でみると最低気温はほぼ平年並みだったが、最高気温は平年より1.1℃低かった。

表1 平成20年11月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温 °C		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	15.9	15.4	0	24	18	24
2	13.4	14.8	11	34	9	24
3	13.4	13.9	0	21	13	23
4	13.0	12.6	4	24	22	23
5	10.1	11.9	35	22	21	24
6	12.8	11.3	49	29	20	25
平均/合計	12.8	13.3	98	154	103	144

## 普通温州の果実品質

11月26日時点での果実品質は、調査地平均でみると着色は平年より遅れ、酸度も平年より高い。これは平年より生育が遅れていることを示している。これは、11月の気温が平年より低かったためと考えられる。糖度は稔年で着果量の少ない三芳地区調査園では低いものの、十分な着果量のある他の2園では平年より高い。これは7～8月の少雨の影響と思われる。糖度は平年より高いものの酸度がまだやや高いため、甘味比は平年を下回っている。果肉歩合は、ほぼ平年並みである。出荷は、減酸を確認してから行いましょう。

表2 普通温州の果実品質（平成20年11月26日）

品 種	調査地	着色程度		糖 度		酸 度		甘味比		果肉歩合%	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
大津4号	三芳地区	6.9	8.4	9.3	10.2	1.01	0.90	9.2	11.5	77.9	75.5
	千倉地区	8.1	9.3	10.8	10.7	1.17	0.98	9.2	10.9	76.7	75.8
	暖地園研	6.6	8.4	10.6	10.2	1.09	0.97	9.7	10.7	77.0	75.5
青島温州	三芳地区	5.4	7.6	7.9	9.5	1.10	0.99	7.2	9.7	74.5	74.6
	千倉地区	7.9	8.6	10.3	10.0	1.10	1.00	9.4	10.2	74.0	73.7
	暖地園研	7.1	8.2	10.6	9.7	1.06	0.95	10.0	10.3	75.4	75.6
平均		7.0	8.4	9.9	10.0	1.09	0.97	9.1	10.6	75.9	75.1

平年値は平成5～19年の平均値

甘味比＝糖度／酸度

## 果実の生育

普通温州の果実の生育を、調査地の平均で見ると、横径および縦径の平年比は、大津4号は97、94%、青島温州は100、96%であった。2品種の平均では横径が99%、縦径が96%と、ほぼ平年並みに近づいた。1果平均重は、平年142gに対し本年129gと平年比91%となった。これは果実が小さすぎることではなく、これらの品種は着果負担が少ないと果実が大きくなりすぎる性質があり、着果・摘果技術の改善を図り、扁平で大きすぎない果実生産に技術改善が図られたことを表している。川野夏柑の果径の平年比は、横径が99%、縦径が95%と、平年にほぼ追いついた。

表3 果実の生育（平成20年11月26日）

No.	種類・品種	調査地	横 径	縦 径
4	大津4号	三芳地区	7.1 cm (97)	4.7 cm (93)
5		千倉地区	7.4 (98)	4.8 (97)
6		暖地園研	7.4 (97)	4.9 (95)
7	青島温州	三芳地区	7.6 (103)	5.2 (100)
8		千倉地区	7.2 (97)	4.8 (95)
9		暖地園研	7.5 (101)	4.9 (96)
10	川野夏柑	暖地園研	9.4 (99)	7.1 (95)
	平均*	普通温州	7.4 (99)	4.9 (96)

( ) の数字は平年値を100とした比数 \* 普通温州：No.4～9の平均

## 12～1月の栽培管理

**マシン油乳剤の散布** 温州ミカンには、12月～3月にカイガラムシ類やミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤(97%)の60～80倍液を散布する。好天が続く暖かい日に散布する。雨が降った後、樹皮が完全に乾いていない時に散布すると樹への負担が少ない。また、寒害を受けやすい園地や着花量が少ない園地では4～5月に100～200倍液を散布する。樹勢の弱い樹では散布を避ける。中・晩生カンキツ類には、2月下旬～3月上旬(収穫後)に、カイガラムシ類やミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤(97%)の60～80倍液を散布する。

**防寒対策** 冬季の落葉は、乾燥による水分ストレスと、強風にあおられて葉柄が弱ることで生じる。そのため風当たりの強い園や幼木、樹勢が低下した樹では、寒冷紗で樹全体を覆い、風当たりをやわらげる。この際、マシン油乳剤の散布直後に覆いをすると落葉が助長される恐れがあるので、散布後10日以上経過してから行う。樹冠下には土壌の保温・保湿のために敷きわらをし、必要に応じて灌水を行う。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話 0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>